



2021年 3月18日
第115号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本
発行人 助川一実
編集情宣担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



申11号 厳しい環境下での定期昇給実施を確認し 2021年度賃金引き上げ 妥結

申11号「2021年度賃金引き上げ」交渉は、本日妥結に至りました。「雇用確保」「定昇確保」「ペア6,000円要求」を柱に2021JR総連春闘としてたたかってきましたが、「ペアゼロ」「定期昇給：昇給係数2」という大変厳しい結果となりました。

横浜地本は、1月の旗開き以降、各支部旗開きや職場集会・個別対話などで議論を積み重ね、「ベースアップ」と「期末手当」の違いを紐解きながら、ペア6,000円の要求根拠を掴みだしてきました。特に「本体が要求しなければ、グループ会社は要求できない」というグループ会社で働く仲間の悲痛な声から、グループ全体の底上げを主軸に議論し、労働者全体で賃金をはじめとした生活向上をめざした「春闘」の意義を捉え返し、職場からのたたかいをつくり出してきました。

具体的には、「本部激励行動」や「グループ会社の仲間と共にたたかう2021JR総連春闘意見交換会」「春闘学習会」「賃金学習会」を開催し、職場からのたたかいによって本部交渉団を支えてきました。特徴的には、組合員の声から出発し、横浜地本が2020政策フォーラムで提言発表した「住環境改善要求」について、一部改善されたことは大きな成果であり、要求実現の第一歩です。

妥結結果については、「要求しなければ会社と議論もできない」「団体交渉がなければ昇給係数2もなかった」「厳しい状況を実感した。有額回答であるだけ良かった」という声がある一方、「人件費削減が加速している」「コストカットというが現場では予算の使い切り、駆け込み購入がある」「委員会などを頑張ったことが反映されているのか」という怒り声もあり、労働組合として、職場で働く仲間の声は真摯に受け止めなくてはなりません。

JR東労組の本体における交渉は妥結に至りましたが、グループ会社における交渉は継続中です。JR総連春闘としてペア6,000円を掲げた要求根拠を今一度捉え返し、最後まで21春闘をたたかい抜きましよう！

申11号の申し入れと会社回答

項目	申し入れ	会社の回答
1	2021年4月1日以降のJR東労組組合員の基本給を一律6,000円(定期昇給を含まない)引き上げること。	ベースアップゼロ 基本給の改定は、その都度、目下の経営状況や今後も環境の変化、生産性向上を含め、会社の将来の持続的成長につながる成果がどれだけ含まれているかなどを議論する 2013年度以来のペアゼロ
2	2021年4月1日以降のエルダー組合員の基本賃金を6,000円引き上げること。	
3	2021年4月1日以降のグリーンスタッフ組合員の基本賃金を6,000円引き上げること。	
4	「労働条件に関する協約(平成30年10月1日締結)」第258条に基づき、定期昇給を実施すること。その場合の昇給係数は「4」とすること。	定期昇給の実施(満55歳未満の社員一係数2) 定期昇給による基準内賃金の1人当たり平均額約3200円 賃金の精算は、6月25日以降準備でき次第
5	退職手当の算出基礎となる「第二基本給制度」を凍結すること。	現段階で実施の考えはない 人件費のみならず経営全般に大きな影響がある。経営上の観点の他、法令等の動向を見て慎重に検討する
6	「65歳定年制」を導入すること。	

新たなライフスタイルに対する総合的な処遇改善

◆新しい生活様式の応援のため、JRE MALLにて社員向け割引商品を拡充

◆令和4年度に社宅住居期間15年以上となる社員について、期間制限1年間延長

横浜地本政策提言の一部反映

2021年6月25日(金)以降、準備出来次第精算する

令和3年度	新賃金の諸元
平均基準内賃金	330,797円
社員数	48,900人
社員年齢	39.0歳

中央本部への撒色紙・撒布の取り組み、
職場集会・個別総対話・過半数代表者選など
職場からのたたかい大変ありがとうございました！

